

## オジロワシ・オオワシ観察会

冬期間に飛来する代表的な渡鳥、オジロワシ・オオワシの観察会を開催いたします。別海町の自然にふれ、人間との関わりを学びたいと思います。ぜひ、ご参加ください。

- 日 時  
平成19年2月17日(土)
- 観察場所  
風蓮湖・走古丹
- 集合場所  
郷土資料館または本別海地域センター
- 講師 別海町郷土研究会会長 渡辺 昇 氏
- 日 程  
9:00 郷土資料館前集合  
9:30 本別海地域センター前集合  
9:40～11:00 観察(風蓮湖・走古丹漁港)  
11:00 現地(走古丹漁港)解散  
11:15 本別海着、解散  
11:40 郷土資料館着、解散
- 対象者及び募集人員  
20名
- 申込み受付期間  
平成19年2月16日(金)まで。  
ただし、定員になり次第締め切ります。
- その他  
当館または本別海地域センターのいずれかの場所に時間までに集合して下さい。車は当館でも用意しますが、自家用車での参加も可能です。また、双眼鏡をお持ちの方は持参してください。
- お申込み・お問い合わせ  
当館まで、電話・FAX・e-mail でお問い合わせ下さい。その際、車の利用(自家用車かあるいは当館の用意する車に同乗するか)と集合場所についてもお知らせ下さい。



### 観察ポイントの紹介など

#### ☆風蓮湖

風蓮湖の氷下漁では、地元漁師のみなさんがチカ・ワカサギ・ニシンなどを漁獲しています。周辺の森の木々にはオジロワシやオオワシをはじめカラス、トビなどが群れをなしてとまっています。

漁がはじまり網が引き上げられると雑魚などはそのまま氷の上に捨てられるため、それらを狙い一斉に鳥たちは飛び立ち、獲物の争奪戦を繰り広げます。年間で多いときは500羽のワシ類が越冬すると聞きます。以前の観察会では何百羽のワシが空中で旋回しワシ柱を作ったこともありました。

#### ☆走古丹

本別海から走古丹までの道は、鹿が多いことで知られています。何百というシカの群れを観察することができると思います。

また、走古丹の港からは、氷の上で昼寝をするゴマフアザラシ達を観察することができるかもしれません。

#### 郷土資料館のお知らせ(2月)

- 休館日 3～4日・11～12日・17～18日・26日
- 開館時間  
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 観覧料  
一般個人 300円 一般団体(10名以上) 240円  
高校生以下は無料となります。

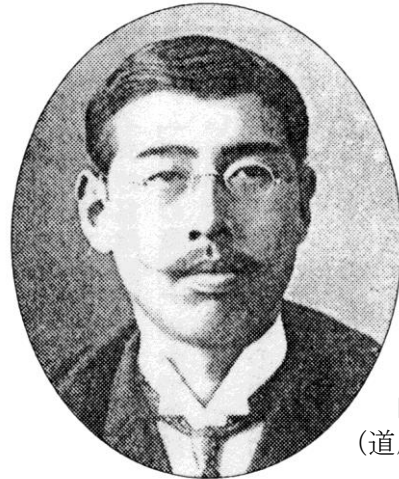
# 別海育ちの詩人向井夷希微～ふる郷を詠んだ詩

## ふる郷（二）

ふる郷を思へば恋し其夏や、  
川添の柳の緑色を深み、  
浜伝ひ尋むれば匂ふ浜茄子の  
薔薇なす花の紅み見れどあかず。

鱒網に海幸またも多かれば、  
産土の稻荷の祭にぎに賑きて  
盆すぎぬ、更に待たれし年迎へ  
雪じもの白銀積むか賤が門も。

村少女炉端に鞠を遊ぶまを、  
堀池の氷すべりや、或はあぐる  
四枚凧、尻尾は長く空にして、  
年ほぎの吟ぞ強きし昔いかに。



向井夷希微  
(道庁勤務時代か)

1942（昭和17）年8月、61歳になっていた夷希微は再び「ふる郷」別海にやってきました。前年に娘と息子を病気で立て続けに亡くしており、心に大きな傷を負った旅でした。

別海に着いた1週間後、夷希微は啄木研究家の川並秀雄に葉書を出していますが、そこには次のような歌2首が記されています。

「はまづたい砂丘は赤き玫瑰（はまなす）の  
花咲きてあり実も成りてあり」  
「帆立貝法貴（ほっき）の貝の寄する浜  
別海（べつかい）の浜に波と語らふ」

別海で夷希微は西別川測量の仕事や、親族の漁場でサケ漁の手伝いをしていました。子どもの頃一緒に凧揚げなどをして遊んだ旧友たち、そして別海に存命であった母との再会が夷希微の心を幾分癒してくれたのかもしれませんが、4ヶ月余り滞在の後、東京に戻りました。

それから1年半後の1944（昭和19）年、夷希微は病気のため62歳で亡くなりました。

※詩文は変体仮名・旧字を適宜改めた。また、参考文献は前号に掲載した。

※今回の執筆に際しても向井豊昭さんに写真・情報を提供していただきました。（文責 戸田博史）

この詩も、向井夷希微（本名永太郎）が1907（明治40）年に『紅苜蓿（べにまごやし）』の第五冊に発表したものです。

第三連には、今から120年前の別海（現在の別海）での冬の遊びが描写されており、小学2年生までそこで過ごした夷希微もまた、他の子どもたちと一緒に凧揚げや氷すべりに熱中していたのでしょう。

夷希微二冊目の詩集『胡馬の嘶き』の巻末には、三冊目の詩集『人間』の発刊が予告されています。しかし、この詩集が出版されることはありませんでした。詩人として生きるという夷希微の希望は、残念ながら叶わなかったのです。

別海町郷土資料館だより No.91

発行日 平成19年2月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

編集後記 向井豊昭さんは第12回早稲田文学新人賞を受賞した作家でもあり、同じく早稲田文学新人賞作家の麻田圭子さんと共に、夷希微をモデルにしたコラボ小説「ブレイク、ブレイク、ブレイク」を書かれています。▼野付中時代に2年間英語を習った「おだまさ」と藤林先生が歌会始のニュースでテレビに登場。二十数年ぶりの「再会」で昔を思い出しました。（戸田博史）